

## I 学校の概要

## 課題解決型学習実践モデル校事業 高松市立香川第一中学校

## ◆児童生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
5学級	5学級	5学級	4学級	学級
154名	164名	173名	19名	510名

○教員数 50名

## ◆学校の特色

本校の生徒は、全体的に子どもらしく人懐っこい一面があり、純朴で優しい生徒が多い。また明るく、運動会、合唱コンクールなどの学校行事にはなかまと協力して意欲的に取り組む。部活動でもバレーボール部やハンドボール部、硬式テニス部などが四国大会や全国大会に出場しており、他の部活動においても生徒は元気よく活動している。学級内、学校行事等で自己存在感を得て、何事にも意欲的に取り組む生徒もいるが、定期試験や「県学習状況調査」の結果、本校のアンケート調査から全体的に日々の学習に前向きに取り組むことができず、困難や課題に対しての逃避がみられる生徒もいることが分かった。特に学習内容の理解が不十分にもかかわらず、家庭での学習習慣が十分身に付いていないため、基礎学力が定着していない生徒も多いことがみられた。

そこで本校全体の課題である低学力の底上げをめざすために、これまで特別活動で行ってきた「一中学級力向上プロジェクト」を取り入れた話し合い活動をさらに充実させ、日々の授業に対する生徒の意識改革や授業での学びを、次回以降の学習意欲につなげ、学習内容を深める工夫が必要であると考えます。

## II 研究主題等

研究主題

## 自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり

— 特別活動を軸にした学力向上のための基盤づくりをめざして —

## ◆研究主題設定の理由

本校では、平成27年度よりユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善とともに、学級活動の取組として、「一中学級力向上プロジェクト」という生徒主導の学級会を行い、学校行事等で生徒が自分たちの課題に対して、解決のために協働して取り組み、結果を振り返って修正して活動する取組を行ってきた。

令和2年度からは生徒指導の三機能の視点を研究の柱とし、自己指導能力を高める取組を行ってきた。特活部会の「一中学級力向上プロジェクト」により、自分たちで課題を設定し、対策案を出し合い、合意形成をする経験を積み、その過程を教科の授業にも取り込み、課題に対して意見や考えを練り上げていった。令和4年度には、この実践研究の成果を県下に誌上発表にて行った。

これまでの本校の取組の成果と課題を踏まえ、令和6年度は特別活動を軸にして、学級活動・委

員会活動・学校行事の活性化とともに、その中での話し合い活動の流れを生かした授業改善の実践研究を推進していく。アフターコロナにおける生徒の現状として、物事に対して「不安である」「やらされている」「自尊感情が下がる」「やる気が起こらない」といった負のスパイラルが生徒の中に形成され、問題行動や学校不適応を生じさせているケースが増えてきている。また、本校の課題である学力向上の改善対策として、居心地がよく、お互いに安心して発言し合える、学び合える環境が必要である。そこで、様々な形での対話を重視し、生徒同士の横のつながりを強くする学級会活動の工夫、生徒が主役となって輝ける専門委員会や学校行事の企画・運営の活性化していくことで、人間関係形成や自己肯定感を育み、将来の進路実現のために基礎・基本の定着をめざし、学び続ける生徒を育成したいと考え、研究主題を設定した。

## ◆研究内容及び方法

### (1) ① 特別活動の充実のための工夫

- ア 学級活動について、年間をとおして計画的に学級会の活動を継続して実施し、教師主導から生徒主体へと少しずつ移行して、生徒の自治力を育てていく。
- イ 生徒会活動について、コロナ禍で縮小された生徒会活動を ICT 機器を活用した広報活動等の工夫した実施等によって活性化させていく。
- ウ 学校行事について、企画・運営段階から生徒主体で行う場面を設定することで、自己決定の機会や異学年交流の導入などで自己肯定感を育てていく。

### ② 各教科の授業改善の工夫

人間関係形成や自己存在感を育む、特別活動の時間だけではなく、教科の授業においても対話的活動による学びを推進することで、学校生活全体で取り組んでいく。

各教科の授業でも、見通しをもたせる課題設定や振り返りの工夫を行う。また人との対話だけでなく、教材など物との対話、自己との対話などを繰り返すことで、広め、深める学びを行い、確かな学力の定着とともに、自己存在感の向上やよりよい人間関係づくりをめざす。

### (2) 組織づくり

<p>将来に生きる学び プロジェクト ★R4の「授業研究部会」の踏襲</p>	<p>学級力向上 プロジェクト ★R4の「特活部会」の踏襲</p>	<p>未来像を思い描く プロジェクト ★R4の「なかまづくり部会」の踏襲と キャリア教育の視点を入れる</p>
<p>○「学級力向上プロジェクト」の学習過程を生かし、学ぶ意欲を育て、「分かった」「できた」「楽しい」と思えるような授業づくりを工夫・実践・評価する。</p> <p>○生徒への配慮(座席配置等)を行い、学習内で友人とつながる機会を増やして、協働して学ぶ場面と個の学びを深める場面を意図的に設定する。</p> <p>○「学習内容」と「主体的な学び」の両面から「振り返り」の研究を推進する。</p> <p>○学力を高めるために、話し合い活動の手立てを充実させる工夫を各教科で実践する。</p> <p>(例)自分の意見をもち、発言する。相手の話を聞いて、尊重する。話し合いを通じて、自分の考えを深める。</p>	<p>○生徒一人一人が安心して楽しく学校生活を送るための「学級力向上プロジェクト」を計画的に実践する。学級活動や専門委員会を活性化させるために、学級内で新たな(関係活動)の提案(ボランティア係等)や専門委員会班を編成する。</p> <p>○生徒の実態調査・分析・追跡調査(アセスアンケートや学級力向上アンケート)から変容を探る。</p> <p>○「学級力向上プロジェクト」の流れを生かし、生徒会が中心となって生徒会活動(専門委員会)を推進する。また、学校外に対して、ICT機器を活用した広報啓発活動を行う。</p>	<p>○各学年で総合学習や学校行事等で計画的に学習を行い、キャリアパスポートを活用して自己評価できるようにする。</p> <p>○学校行事等で異学年同士で交流する機会や、上級生が下級生に対して模範を示し、助言する機会を設けることでお互いに刺激し合い、高め合うことができるように働きかける。</p> <p>○学校行事や日頃の学習の話し合い活動を通じて、学級内で発言する機会を増やし、自分の意見や考えを伝えたり理解したりすることや、自分に向き合い、自分の将来の理想図をイメージすることができるきっかけづくりをしていく。</p> <p>○学び合いの機会を設定し、それをきっかけに自分の目標や進路に対する意欲がけにつなげる。</p> <p>(例)テスト発表中短縮授業を行い、そこで生み出した30分を互いに、学び合う、教え合う時間を設定する。</p>

### Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

月	方 法	内 容
5	・生徒・教員の実態調査	・生徒と教員の授業や学校生活に関するアンケート調査第1回（授業アンケート、アセスアンケート）
6	・校内で転任者向けに研究授業（学活）の実施 ・研究授業（英語）での指導者からの評価	・本校の学活の取組の分析と今後の実践計画について ・授業研究についての分析と改善
7	・生徒・教員による評価	・1学期の実践の成果と課題、2学期に向けての改善策
8	・指導案（学活）検討での指導者からの評価	・授業研究についての分析と改善
9	・研究授業（学活）での指導者からの評価	・授業についての分析と改善
10	・研究授業（社会・道徳）での指導者からの評価	・授業についての分析と改善
11	・研究授業（国語・数学）での指導者からの評価 ・生徒、教員による評価	・授業についての分析と改善 ・生徒と教員の授業や学校生活に関するアンケート調査第2回（授業アンケート、アセスアンケート）
12	・県学習状況調査の評価と分析 ・香川の教育づくり発表会での評価	・学習状況の結果を踏まえた3学期の改善 ・参加者からの意見や感想
2	・生徒、教員による評価	・1年間の成果と課題、次年度に向けての改善策

- ・授業アンケート（タブレット端末を活用）の年間3回実施
- ・アセス調査アンケート（タブレット端末を活用）の年間3回実施
- ・県学力状況調査生徒質問紙アンケートの活用

### Ⅳ 研究成果の普及方法

#### 5) 研究成果の普及方法

##### 【教員にむけて】

- ・小中交流研での授業公開および、研究討議
- ・「香川の教育づくり」での発表
- ・校内研究授業（要請訪問）の実施
- ・「令和7年度 香川県中学校教育研究会特別活動部会研究大会」での発表

##### 【地域・保護者にむけて】

- ・学校評価委員会での アンケート分析の発表
- ・学校だより、学年団通信での発行